



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



聖年に寄せて(3)

イエスの死と復活にあずかる

鹿児島教区司教 中野 裕 明

教区の皆さま、お元気で
しょうか。

今年の復活祭は遅いので、このメッセージを受け取る時はまだ四旬節中になります。従って、復活のご挨拶は後程にして、今回はイエスの復活を自分の事として理解できるようにお話ししたいと思います。

まず、もし現代、イエスの復活が死者から蘇ったニュース記事として報道されるとしたら、全世界のビッグニュースになるでしょうし「それはフェイクだ」「事実誤認だ」「印象操作だ」「陰謀論だ」などとマスコミ界で大騒ぎになると思います。

イエスの復活の出来事が報告されているのは、4つの福音書においてのみです。4つの報告は、画一的に統一されたものではなく、細かな描写の違いがあります。例えば復活の朝、イエスが埋葬された墓に行つたのは女性たちですが、その人物名で共通なのはマグダラのマリアだけで、あとの固有名詞は様々で、正確な人数も分かりません。つまり、イエスの復活は歴史的事実ですが、その報道は、個人的な体験の報告の

かたちをとっていると言えます。

これらの婦人たちは、イエスの墓で四旬節中を知らされた。(中略) 婦人たちはこれらの方を使徒たちに話したが、使徒たちは、この話がたわ言のように思われたので、婦人たちの信じたこと(ルカ24・9-11)とあります。

このエピソードで、三つのことを学べます。

①イエスの復活の証人になったのは女性であったということ。当時の慣習として、女性と奴隷は、裁判などの場面では証人として承認されていませんでした。しかし神様は、そのような身分の人たちを復活の証人になさいました。

②復活の証人は、生前のイエスと面識があり、しかも深いお付き合いをしていた人たちでした。

1955年2月25日、当時の教皇ピオ12世は鹿児島を巡視する際、鹿児島教区に昇格させた。この昇格の日を「教区の日」と定めた中野裕明司教は、記念の日の夕方、鹿児島カテドラル・ザビエル教会で「教区の日ミサ」をささげた。

聖職者らの節目を記念し川口助祭を追悼 今年の教区の日ミサ

17時30分から始められたミサに参列したのは90人ほどの信者たち。この日のミサでは、2月14日に天に召された教区の終身助祭・川口茂さんの追悼とそのあとを追うように2月23日に亡くなった川口助祭の長男・知一郎さんの死を悼んでのものとなったため、北海道在住の次男・研二郎さん、知一郎さんの家族の姿もあつた。中野司教と一緒に共同司式したのは、奄美大島から駆けつけた郡山名誉司教と9人の司祭だつた。



司教祝福を受けるSr.ワルトラウド

ミサの始まりに中野司教は、「今日のミサでは、司祭叙階50年(4月13日)を迎えるコンベンツアル聖フランシスコ修道会の久保芳一神父(古田町教会)、誓願立60年を迎えるレデンプトール宣教師道女会のエルハルド・ワルトラウド修道女、シヨファイユの幼きイエズス会西仲勝修道院の

ない」と申し出る方もいます。一方、復活したイエスは次のメッセージを發しています。マгдаラのマリアに向かつてイエスは、「わたしの兄弟たちのところへ行って、こう言いなさい。『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたが

たの神である方のところへわたしは上る」と(ヨハネ20・17)。

このメッセージから2つのことを学べます。

①生前のイエスは、弟子たちに向かつて、「あなたたち」と呼んでいました。しかし今回、イエスは弟子たちを「わたしの兄弟」と呼びます。聖書の世界では「兄弟」と言うと、血縁関係から同胞や他民族のことまでを含む意味で使われているので、つまりアブラハムの子孫としての複数の民族を兄弟と呼んでいるので、血縁的兄弟関係は、カインとアベルや放蕩息子のたとえ話にあるような兄弟関係では悲劇が

生まれます。さらに、イスラエルとイスラームも異母兄弟です。

従って、このような争いに巻き込まれないためには、「復活したイエスと兄弟の間柄になるということ」は、神の似姿として創造された人間が神のかたどり(神の像)(創世記1・26節参照)に変容させられる」というふうな理解する必要があります。

②さらに、イエスと同じ父、同じ神につながることは、ユダヤ民族を超えていくことを意味しています。聖パウロは次のように言っています。

「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです」(ガラテアの信徒への手紙3・26-28)。

結論として、イエスの死と復活にあずかることは、「キリストを着る」者になるという事です。つまり、それは原罪や自罪の結果である分断や差別を乗り越えて平和(和解)をこの世にもたらす者となるよう努力することでもあります。

主イエスの復活のめぐみが皆さんと共にありますように。

永田晃代修道女、同修道会名瀬信愛修道院の青堀美奈子修道女のこれまでの働きに感謝し、ますますの活躍を祈るとともに、帰天した川口助祭の永遠の安息を祈りたい」と挨拶し、ミサを進めた。

末吉卓也神父によるルカ福音書朗読後の説教で中野司教は「教区に昇格して70年、鹿児島基礎づくり尽力された田原神父様も先日、天に召された。歴史を築いていくということは、人的には新陳代謝が行われなければならない」とのこと。これは悲しいことだが、神の業がこれからも続いていくように、それぞれが使命を果たす覚悟を持つよう。人生にはいろいろな出来事があるが、すべてに神のみ旨が働いている。自分にとっては不都合なことでも甘んじて受け、神様のみ旨(常識)を理解できるようにしよう」とメッセージを送った。

宣立60年のモニカ・エルハルド・ワルトラウド修道女に司教から祝福があり、またシスターからは「60年のうち40年を日本で過ごしている。これは皆さん、そして修道会のおかげ。残された道も力強く歩みたい」と挨拶があつた。

その後には、川口茂終身助祭のための追悼があり、中野司教から川口助祭の働き、特に東日本大震災復興

支援のことなどが紹介された他、あとを追うように亡くなった長男・知一郎さんのことにも触れ「神のなさる不思議を感じている。親子で聖人の交わりに加わっていることを信じ、残された私たちが神の国の栄光のために働こう」と語り、ミサを締めくくった。

ミサ後は、教会ホールで茶話会があり、交流のひとつが持たれた。

司祭の異動

- ▼ビンセンチオ松永正男神父(古田町教会及び古仁屋教会主任司祭)は、湯江修道院(長崎大司教区)。
 - ▼アンデレ金熊一(キム・ヒール)神父(長崎大司教区・聖母の騎士修道院)は、古田町教会及び古仁屋教会主任司祭。
 - ▼ミカエル山浦義春神父(古田町教会及び古仁屋教会主任司祭)は、聖母の騎士修道院(長崎大司教区)。
 - ▼ニコラス・スワイヤテック神父(名古屋教区・瀬戸修道院)は、奄美修道院。
 - ▼ルカ内野洋平神父(大笠利教会主任司祭)は、仁川修道院(大阪高松大司教区)。
 - ▼フリードマン藤澤義典神父(那覇教区・石川教会主任司祭)は、大笠利教会主任司祭。
- ※いずれもコンベンツアル聖フランシスコ修道会。着任は4月1日。

神のみもどやおやすみくだわい

告別式での弔辞でドミニコ田原章神父を偲ぶ

鹿兒島教区の基礎作り尽力し2月11日（火）98歳で
 帰天した田原章神父の告別式（2月13日）では、司祭団
 を代表して郡山健次郎名誉司教が、信徒を代表して池田
 和恵さん（鴨池教会）が弔辞を述べた。教区報では弔辞
 を紹介して、田原神父の人となりを偲びたい。

兄貴のように優しくかつた神父様へ

司祭団代表 郡山 健次郎

でられるのでしよう。私
 は相変わらずさうしてやら
 かししょう性質です。

田原神父様98年間、そし
 て司祭職を72年間、本当にお
 疲れさまでした。神父様の経
 歴を拝見しますと、1972
 年4月、聖心教会主任司祭に
 任命されておられます。そし
 て、覚えていらつしやいます
 よね、私も同じ年の4月、助
 任司祭として聖心教会に赴任
 しました。

私にとつて初めての主任
 司祭は神父様でした。「奄
 美大島は初めてのところだ
 から、奄美出身のあんたに
 も色々教えてもらわんと
 いかん」とのことだったと
 思うのですが、赴任した最
 初の日、食事の後に一晩中
 寝ずにあれこれ…。何を話
 したかは覚えていません
 が、東の空が白む頃まで、
 「神父様、あと1時間でミ
 サの時間ですよ」というほ
 どに、二人で色々話し込ん
 だことが思い出されます。
 その日二人は、ミサを終え
 るとお昼頃まで爆睡してし
 まいました。

先ほど、私は葬儀ミサの
 中で早くも神父様を聖人の
 列に加えて祈ってしまいま
 した。あれはメモントで言
 うはずのところでした。失
 礼しました。神父様は「わ
 しをそんなに早く、聖人の
 列に加えたのか」とこの遺
 影の写真のようにはにかん

「司祭になつたらみんな同
 じようなものだ」と、考え
 ていた私は、神父様に相談
 することもなく「馬小屋を
 作りたい」とお聖堂の横に
 たくさんの竹やいろいろな物
 を持ち込みました。すると
 神父様から「そんなもので
 馬小屋を作るのか」とチャ
 チャを入れられたことがあ
 ります。茅葺きのような馬
 小屋となりましたが、私が
 勝手にしたことでした。

勝手にしたことといえ
 ば、私がある信者と問題を
 起こしたときも、神父様は
 盾になって終始、私を弁
 護・擁護してくださったこ
 と、これも申し訳なく思っ
 ています。

また神父様の高級な車を
 使用させてもらったときな
 ど、「奄美の道は鹿兒島よ
 り30年、遅れている。デコ
 ボコだ」と言われていたの
 にもかかわらず、泥道を走
 らせて、帰ってきて見てみ
 ると車の底に穴を開けてい
 ました。それも神父様には
 迷惑をかけたことでした。
 どんな風に謝ったか覚えて

田原神父様に初めてお会
 いたのは、私が開園間も
 ない聖母幼稚園の園児のと
 きでした。神父様は「と
 も背が高い園長先生」と
 う印象でした。

当時はお聖堂と保育室は
 共有されていました。日曜日
 には保育室を片付けて信者席
 を作る作業が毎週続きまし
 た。そんな中、信者も園児も
 増え、木造のお聖堂が手狭に
 なり「新しい教会を」という
 ことで、教会建設に向けて資
 金集めが始まりました。当時
 は皆貧しく、建設資金を集め
 ることは容易ではありませ
 でした。そこで田原神父様は
 いろいろなことを考えられま
 した。クリスマスや復活祭
 には宝くじを販売、廃品回
 収には子どもたちも頑張り
 ました。鴨池教会以外から
 も多くの援助を受け、10数
 年かけて今の教会が建てら
 れました。そこには私たち
 が知らないご苦労がたくさん
 あったと思います。

神父様が事あるごとに話
 されていたのは「あのお聖
 堂は多くの人の犠牲の上に
 建っていることを忘れては
 いけないよ。特にドイツか

CHÚA CHÚNG TA ĐANG SỐNG

Truyền giáo tại Nhật Bản là một hành trình đầy thử thách nhưng cũng chứa chan dấu chỉ của Thiên Chúa. Trong một xã hội mà Kitô giáo chỉ chiếm một tỉ lệ rất nhỏ, có những lúc tôi tự hỏi: "Làm sao để Tin Mừng có thể chạm đến tâm hồn của người Nhật?", "Chúa có thật sự hiện diện nơi đây không?" Nhưng chính kinh nghiệm sống và phục vụ, tôi nhận ra một điều chắc chắn: Chúa chúng ta đang sống! Ngài vẫn đang hoạt động cách âm thầm nhưng mạnh mẽ trong lòng người dân Nhật.

1. Gặp gỡ Chúa Qua Những Con Người Bình Dị

Nhật Bản không phải là một quốc gia Kitô giáo, nhưng điều đó không có nghĩa là Thiên Chúa vắng mặt ở đây. Tôi nhận ra sự hiện diện của Ngài nơi những con người mà tôi gặp gỡ:

Một cụ già không phải Kitô hữu, nhưng luôn đến nhà thờ để giúp dọn dẹp với lòng kính trọng và sự bình an nội tâm.

Một bạn trẻ tìm đến nhà thờ với bao câu hỏi về cuộc sống, và sau thời gian dài tìm hiểu, đã can đảm đón nhận Bí tích Rửa tội.

Những anh chị em giáo dân tuy ít ỏi nhưng vẫn kiên trì sống đức tin giữa một xã hội dường như không có chỗ cho Thiên Chúa.

Mỗi câu chuyện ấy nhắc tôi nhớ rằng Chúa vẫn đang âm thầm chạm đến tâm hồn con người, dù họ chưa nhận ra Ngài.

2. Chúa Sống Trong Những Thử Thách Và Kiên Nhẫn

Truyền giáo tại Nhật Bản không dễ dàng. Ngôn ngữ là một rào cản lớn, văn hoá thì rất khác biệt, và phần lớn người Nhật có cái nhìn xa lạ với Kitô giáo. Đôi khi, tôi cảm thấy mệt mỏi và nản lòng khi không thấy kết quả ngay lập tức. Nhưng chính trong lúc ấy, tôi nhớ đến lời Chúa Giêsu: "Này, Thầy ở cùng anh em mọi ngày cho đến tận thế" (Mt 28, 20). Nhờ đó tôi hiểu rằng: minh chi là một khí cụ trong tay Chúa. Công việc truyền giáo không thuộc về tôi, mà thuộc về Ngài. Tôi chỉ cần kiên trì gieo hạt giống Tin Mừng bằng sự yêu thương, phục vụ, và cầu nguyện. Còn việc làm cho hạt giống nảy mầm và phát triển là công việc của Chúa.

Có những người Nhật không thể mở lòng đón nhận Kitô giáo ngay, nhưng họ bị thu hút bởi sự bình an, niềm vui và tình yêu vô điều kiện mà các Kitô hữu mang lại. Có lẽ họ chưa nhận biết Chúa, nhưng họ cảm nhận được sự hiện diện của Ngài qua những hành động yêu thương mà họ nhận được. Điều này giúp tôi hiểu rằng: Chúa vẫn đang sống và hoạt động, chỉ là theo cách của Ngài, không phải theo cách tôi mong muốn.

3. Chúng Tôi: Sống Tin Mừng Giữa Đời Thường

Tôi nhớ có một người phụ nữ Nhật không theo đạo nhưng thường đến nhà thờ để trò chuyện. Một ngày nọ, bà nói với tôi: "Tôi không biết về Chúa của các bạn, nhưng tôi thấy những người tin Chúa luôn có một sự bình an và niềm vui đặc biệt. Điều đó làm tôi tò mò và muốn tìm hiểu".

Lời chia sẻ ấy khiến tôi xúc động. Tôi nhận ra rằng Chúa Giêsu Phục Sinh không chỉ sống trong nhà thờ, mà Người đang sống trong từng người Kitô hữu, qua cách chúng ta yêu thương và phục vụ người khác. Rao giảng bằng đời sống lại có sức mạnh rất lớn. Một nụ cười, một cử chỉ quan tâm, sự kiên nhẫn lắng nghe hay đơn giản là sự hiện diện yêu thương - tất cả đều có thể là lời chứng sống động về Thiên Chúa.

Hành trình truyền giáo tại Nhật giúp tôi xác tín rằng Chúa chúng ta đang sống, sống giữa những người chưa biết Chúa, nơi những tâm hồn đang khao khát tình yêu và chân lý. Dù có những khó khăn, dù đôi khi ta không thấy ngay kết quả, nhưng tôi tin chắc rằng Chúa vẫn đang đồng hành, vẫn đang gieo mầm đức tin trong lòng người Nhật theo cách mà chỉ Ngài biết.

"Lạy Chúa Giêsu Phục Sinh, con tạ ơn Chúa vì đã cho con kinh nghiệm được sự hiện diện sống động của Chúa nơi đất nước Nhật Bản này. Xin cho con luôn kiên trì và trung tín trong sứ mệnh truyền giáo, để qua con, nhiều người có thể nhận ra Chúa vẫn đang sống và yêu thương họ. Amen"

直ぐ様、吉野の高台から街
 まで行って缶ビールを買っ
 て、タクシーで向かいまし
 た。その時も神父様は賄い
 をされていた柿森さんと迎
 えてくださり、しこたま飲
 んでから帰る時、神父様は
 「タクシー代に」と言っ
 て手に3千円を握らせてくれ
 ました。優しさが身にしみ
 ました。兄貴としても先輩
 としても支え、励ましてく
 ださった神父様、神様のも
 とでゆつくりとおやすみく
 ださい。また会う日まで。

もう一つだけお話ししま
 すが、吉野に赴任していた
 時です。その時、神父様は
 紫原におられました。私は
 落ち込むことがあつて「ど
 うしても神父様と酒が飲み
 たい」と強く思われて、電
 話しました。すると神父様
 は「おお、おいでよ」と言
 ってくださいました。私は

だったようです。このよう
 に思い起こせば、赤面する
 ようなことがばかりですが、
 そんな私を守ってください
 ました。

らのお金は、ミサに行くの
 にバスなど使わずにそのバ
 ス代を献金するために歩い
 た人、ビールを飲みたいの
 を我慢して献金した人がい
 るのだよ。決して有り余っ
 た中からではなく、そんな
 犠牲のおかげで建ったこと
 を忘れないで」でした。

鴨池教会の家庭は広範囲

に広がっていて、子どもたち
 もたくさんいました。神父様
 は、「せつかくカトリックの
 幼稚園があるのだから、この
 子どもたちに信仰教育を受け
 させたい。でも安全に幼稚園
 に通えるようにしてはなけれ
 ば、今では当たり前となって
 います。当時としては九州
 初となる園児送迎バスを導入
 されました。

私は聖母幼稚園に40年間
 勤めました。いつの時代
 でも子どもたちはお聖堂が

大好きです。「お祈りに行
 っていい？」とロザリオを
 持ってお祈りしています。
 卒園して大人になって訪ね
 てきても、お祈りして「お
 聖堂は変わっていませんか
 ？」と懐かしんで帰って行
 きます。

神父様は掃除と施設整備
 には特に厳しい方でした。
 そのため幼稚園では全職
 員、とても気を使っていま
 した。幼稚園を見学に来ら
 れた保護者は「この幼稚園
 は施設は古いけど、掃除が
 とても行き届いていて気持
 ちがいい」と言ってくださ
 っていました。

神父様は引退されてか
 ら、時々、聖体訪問のため
 に上荒田町のお住まいから
 足を運んでくださいますし
 た。なぜか職員室の外が賑
 やかだなど感じて見てみる
 と、子どもたちが神父様と
 楽しそうに話しているの
 です。そんなときの神父様が
 子どもたちを見つめる目
 は、とても優しくまるでイ
 エス様の眼差しのように感

じられました。一方、「当
 時の職員と私は、よく神父様
 に怒られました」と申し上げ
 ると、「そんなに怒ったか
 な」と言われましたが、怒ら
 れたことはしつかりと身に
 なり、とても感謝しています。
 10年ほど前、神父様から
 「パソコンを覚えてほし
 い」と言われ、最初は週3
 日で始めました。大きな指
 きながら一生懸命に練習さ
 れました。練習回数が増す
 ごとにお疲れになるのか、
 お茶の時間が長くなり、あ
 とはほとんど私の困り事や
 悩みを聞くという霊的指導
 の時間になってしまいました
 ます。晩年も私が訪ねていき
 ますと「鴨池教会の方はお
 元気でですか」が挨拶の言葉
 でした。いつも信者みんな
 のことを気にかけてくださ
 り、祈ってくださいあってあ
 りがとうございました。そし
 て長い間お疲れさまでし
 た。ゆつくり神様のみもと
 でおやすみください。心か
 ら感謝を申し上げます。

心を育ててくださったことに感謝

信徒代表 池田 和恵

直ぐ様、吉野の高台から街
 まで行って缶ビールを買っ
 て、タクシーで向かいまし
 た。その時も神父様は賄い
 をされていた柿森さんと迎
 えてくださり、しこたま飲
 んでから帰る時、神父様は
 「タクシー代に」と言っ
 て手に3千円を握らせてくれ
 ました。優しさが身にしみ
 ました。兄貴としても先輩
 としても支え、励ましてく
 ださった神父様、神様のも
 とでゆつくりとおやすみく
 ださい。また会う日まで。

もう一つだけお話ししま
 すが、吉野に赴任していた
 時です。その時、神父様は
 紫原におられました。私は
 落ち込むことがあつて「ど
 うしても神父様と酒が飲み
 たい」と強く思われて、電
 話しました。すると神父様
 は「おお、おいでよ」と言
 ってくださいました。私は

だったようです。このよう
 に思い起こせば、赤面する
 ようなことがばかりですが、
 そんな私を守ってください
 ました。

らのお金は、ミサに行くの
 にバスなど使わずにそのバ
 ス代を献金するために歩い
 た人、ビールを飲みたいの
 を我慢して献金した人がい
 るのだよ。決して有り余っ
 た中からではなく、そんな
 犠牲のおかげで建ったこと
 を忘れないで」でした。

鴨池教会の家庭は広範囲

に広がっていて、子どもたち
 もたくさんいました。神父様
 は、「せつかくカトリックの
 幼稚園があるのだから、この
 子どもたちに信仰教育を受け
 させたい。でも安全に幼稚園
 に通えるようにしてはなけれ
 ば、今では当たり前となって
 います。当時としては九州
 初となる園児送迎バスを導入
 されました。

私は聖母幼稚園に40年間
 勤めました。いつの時代
 でも子どもたちはお聖堂が

大好きです。「お祈りに行
 っていい？」とロザリオを
 持ってお祈りしています。
 卒園して大人になって訪ね
 てきても、お祈りして「お
 聖堂は変わっていませんか
 ？」と懐かしんで帰って行
 きます。

神父様は掃除と施設整備
 には特に厳しい方でした。
 そのため幼稚園では全職
 員、とても気を使っていま
 した。幼稚園を見学に来ら
 れた保護者は「この幼稚園
 は施設は古いけど、掃除が
 とても行き届いていて気持
 ちがいい」と言ってくださ
 っていました。

神父様は引退されてか
 ら、時々、聖体訪問のため
 に上荒田町のお住まいから
 足を運んでくださいますし
 た。なぜか職員室の外が賑
 やかだなど感じて見てみる
 と、子どもたちが神父様と
 楽しそうに話しているの
 です。そんなときの神父様が
 子どもたちを見つめる目
 は、とても優しくまるでイ
 エス様の眼差しのように感

支部長に重留万希子さん

日本カトリック看護協会鹿兒島支部が総会

皆さまは「カトリック看護協会」をご存じでしょうか。実は世界的つながりを持つ団体です。日本では15教区の内14教区に支部があります。

皆さまは「カトリック看護協会鹿兒島支部」は、小隈憲士神父さまを（ザビエル教会主任）顧問司祭として、ご指導を頂きながら年に1回の支部総会、会員の交流を深めるために交流会など細々と教区内で活動いたしておられます。

この会は「会員の霊的および専門職業としての知識、技術の向上をはかり、その技能と環境において、キリストの証人として、使徒職実践に寄与することを目的」として設置されました。会員は、カトリック信

者で本会の趣旨に賛同する保健師、助産師、看護師、准看護師、介護士、医療関係従事者、看護学生、養護教諭で構成されます。

鹿兒島支部設置は1957年に「日本カトリック看護協会」が発足したことを受け、各教区に支部が設置されることになったことがきっかけです。一時期、活発な活動があった鹿兒島支部ですが、その後ほぼ休会状態となりました。それが再生したのは、1983年のことで、当時の糸永真一司教さまの要望にこたえてのことでした。

鹿兒島支部の現在の会員数は13（内訳は谷山教会1人、ザビエル教会2人、始良教会5人、溝辺教会1人、川内教会1人、鴨池教会1人、古仁屋教会1人、レデンプトル宣教修道女会1人）です。よろしくお願ひ致します。

同日の支部総会で役員交代をいたしました。2025年度の新役員は以下のとおりです。（敬称略）

支部長 重留万希子（ザビエル教会）、副支部長 澤ヤエ子（レデンプトル宣教修道女会）、会計 松元怜奈（始良教会）、監査 河村敦子（始良教会）。

鹿兒島支部では、新規会員の発掘も行っておりま

す。医療関係者の皆さま、私たちに声をかけてください。お待ちいたしております。

現役でお働きの方々は忙しいとは思いますがカトリック医療従事者として、会員の霊的向上のためにお互いに祈り、黙想会などを通して歩んでいきたいと思っております。（報告・澤ヤエ子 修道女）

よくあるなんでもない風景。でもそこに過去に起こった出来事を重ね合わせてみると、風景が物語になる。ぜひ多くの方に来てもらい、シドゥチ神父が上陸した3世紀前の屋久島に思いを馳せてもらえたら」と喜びを語った。

景観づくりに取り組み人や団体を表彰する「かごしま景観大賞の表彰式が2月13日、鹿兒島県庁であった。4回目となるかごしま景観大賞には、屋久島で活動するNPO法人やくしま未来工房の「屋久島シドゥチ上陸展望タワー」（屋久島教会敷地）が選ばれた。

やくしま未来工房の古居智子理事長は「屋久島には

のこまだからです。霊操316の第3則には、創造主の愛へと霊魂が燃え上がり、すべての被造物を愛することができると、それらを創造してくれたのが神であるからという理由によって愛が沸き上がってくる状態や「自分の罪の痛みからか、わが主キリストの受難の故か、あるいは主への奉仕と賛美に目指す他の刺激のため、主への愛へと駆り立てる涙を流す時も霊的慰め」と言い、「創造主のうちに霊魂に静けさと平和を与え、天上のものとの自分の救霊へと呼び寄せ引き寄せるあらゆる希望・信仰・愛徳の増大、あらゆる内的喜びを慰めたい」と書かれています。

その反対の状態を「霊的荒み」と言います。霊操317の第4則には、霊的慰めにおいては天上のものへと霊魂が引き寄せられる一方で、霊的荒みにある霊魂は、地上のもの、現世的な喜びへと霊魂が傾き、心は乱れ、不信へと駆り立てられ、不安と恐れにとらわれ、希望も愛もない状態で、霊魂は渇き、なまぬるく、もの悲しくなり、神から切り離された状態になるとあります。これを霊的荒みと言います。悪い霊によってもたらされるものです。



【司教日程】1日大口明光学園、2〜3日常任司教委員会（東京）、4日聖園老人ホーム及び愛の聖母園、6日吉野教会、9日中野アカデミー、12日カトリック大隅及び聖マリア学園、15日聖香油ミサ及びコンベンツス、16日中野アカデミー、21〜22日九州司教会議（福岡）、23日中野アカデミー、28日カトリック理事長会、30日中野アカデミー

【祈りの意向】新しいテクノロジーの使用 日本教会 新生活を始める人たち

イグナチオの霊操②

紫原教会主任司祭 貴島 丈弥

霊の識別 (4)

第1週の霊の識別「霊的慰めと霊的荒み」

霊操中の第1週目と第2週目では悪い霊の誘惑の仕方が異なります。1週目に比べて2週目の霊はより狡猾に霊操者をもとの状態に、またはさらに悪い霊の状態に引きずり込もうとします。霊操を与える人は、霊操者がどのような誘惑や霊的荒みを体験しているかという霊の状態を見極め、それに応じて対応していく必要があります。（霊操6〜10）

第1週目の霊の識別は当然、霊操の第1週目の「浄め」の段階に適用されます。霊操313には、霊魂に引き起こされる種々の動きをいくらか知覚するための規則。良い霊動を受け入れ、悪い霊動を退けるためであるという「規則」の意義が書かれています。霊操314から霊操327までが第1週目の「規則」になります。

第1週に在る霊操者は、霊的に「未熟」の段階にいます。「浄め」の期間に自分自身の卑しき、自分の罪の醜さ、心の汚れを探し出し、見

つめていく霊操者の心はもろくなっています。その心を「そんなことする必要はない」、「皆お前と同じことをしているじゃないか」とか「聖人になんてなれるわけないじゃないか」などと誘い、霊的成長を妨げようとする悪い霊とその反対にその心を喜び、慰め、希望へと導こうとする良い霊の働きを霊操を与える人は見極め、良い霊の声を信じるようにながしませます。ここに霊操において重要な「霊的慰め」と「霊的荒み」という言葉が出てきます。

慰めが「霊的」であるというの、表面的な意味ではなく、神からのもので、心の深い部分から湧き上がってくる慰め、または喜び

参考文献

Achille Gagliardi S.I., Sul Discernimento degli Spiriti

会 と 催 し 4月

- 1日 (火) みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
- 2日 (水) 中野裕明司教司祭叙階記念(1978年)
- 4日 (金) レヒナ神父命日(2015年)
- 6日 (日) 四旬節第5主日
- 9日 (水) 中野アカデミー・教区本部・13時30分
- 12日 (土) 聖書の分かち合い・教区本部・14時
- 13日 (日) 青年会・教区本部・18時
- 13日 (日) 受難の主日(枝の主日)
- 15日 (火) 久保芳一神父叙階記念(1975年)
- 15日 (火) 聖香油ミサ・鹿兒島カテドラル・11時
- 16日 (水) コンベンツス・教区本部・13時30分
- 16日 (水) 中野アカデミー・教区本部・13時30分
- 17日 (木) 聖木曜日(主の晩餐)
- 18日 (金) 聖金曜日・主の受難(大斎・小斎)

14世紀中ごろ、教皇クレメンス6世は、パレスチナ各地の巡礼所とヨーロッパからの巡礼者保護をフランシスコ会に委託しました。その後、政情不安定な聖地で苦勞している修道者たちを支えるために行われるようになった献金は、いつのころからか主の受難と死を記念する聖金曜日にさげられるようになりました。そして教皇レオ13世は1887年、カトリック教会のすべての小教区にこの聖地のための献金を命じました。

全世界の教会からローマ教皇庁に集められる献金は、現在、イスラエル、ヨルダン、キプロス、パレスチナ自治区内にある数多くの巡礼所や聖堂などの維持管理に充てられるほか、聖地の貧しい兄弟のための福祉施設や教育施設の運営、奨学金や生活保護などの資金として使われています。

久保芳一神父が金祝



コンベンツアル聖フランシスコ修道会の久保芳一神父（古田町教会及び古仁屋教会協力司祭）が司祭叙階50周年（金祝）の節目を迎える。

奄美大島は名瀬市出身の久保神父は、1947年8月21日生まれ77歳。1960年に長崎の聖母の騎士小神学校に入学し、1969年11月に誓願宣立した。1975年3月に上智大学神学部を卒業、その2か月後の4月13日、聖心教会で糸永真一司教によって司祭の聖位にあげられた。

叙階後は大笠利、聖心、西阿室、赤尾木の教会で働き、1987年からは約25年、アフリカのザンビアで宣教司牧に邁進した。2012年に帰国し古田町教会の助任司祭として働き、2017年から4年間教区外で働いたものの、それ以外

聖年中に巡礼を

指定教会にパネル

「聖年中の歩みを神に立ち返る機会としてほしい」とする中野裕明司教は、聖年中の巡礼指定教会を本土地区ではカテドラルのザビエル教会、奄美地区では名瀬聖心教会、そして徳之島地区では母間教会と発表した。そのうえで聖年の間にできることなら小教区単位で、グループでの巡礼を実施してほしいとした。これを受けて教区本部で



は、それらの教会に聖年のロゴをパネル（直径70cm）を作り、教会に届けた。写真は、ザビエル教会祭壇横に設置されたパネル。

2025年聖年 希望の巡礼者司教団公式巡礼



希望の巡礼者司教団公式巡礼 一 菊池功枢機卿着座式参加一
Aコース：ルルド・パリ・ローマ10日間
◇10月2日（木）～11日（土）
◇団長：中村倫明大司教
◇908,980円（2人1室利用）
◇募集定員35人、最小催行人数25人
Bコース：アシジ・ローマ8日間
◇10月4日（土）～11日（土）
◇団長：前田万葉枢機卿
◇809,730円（2人1室利用）
◇募集定員35人、最小催行人数25人
申込締切：6月30日
企画：日本カトリック司教協議会
申込：株式会社トラベルハーモニー
FAX03 (6260) 7442 / TEL03 (6260) 7444

短 信

は奄美大島の教会のため尽力し現在に至っている。

世界祈禱日の集會

世界祈禱日の3月7日（金）午後、ザビエル教会（主任司祭小隈憲士神父）で日本キリスト教協議会主催の祈禱会が開かれた。14時からこの集會に集まったのは、プロテスタント、カトリックの信徒約80人。これは日本でも第二次世界大戦中を除き、1932年から続けられている集

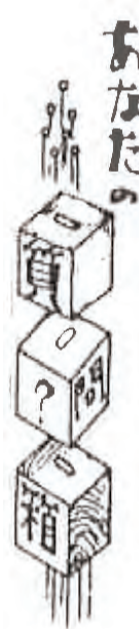


要 理

いで、今年のテーマは南太平洋のクック諸島の女性たちによって提案された「わたしたちはおそろしいほどに、すばらしく造られています」だった。参加者たちは、「日本のキリストを信じる教会の構

免償について

質問 始まった「聖年」では、全免償が受けられるとのことですが、そもそも免償とは何でしょうか？
答え 「カトリック教会



成員の7割ほどは女性の信徒です。そして高齢化も進んでいます。そんな中でも、子どもに、孫に、希望を持って信仰と愛を伝えていきたいと思います。今日は共に神の創造のみわざに感謝できるよう祈りましょう」という小隈神父の歓迎の挨拶を受け、集會をスタートさせた。参加者たちは、クック諸

島の公用語のひとつマオリ語の「こんにちは」を意味する「キア オラナ」に含まれる「あなたが長生きしますように。太陽のように輝きますように。波と一緒に踊れますように」のメッセージを黙想し、心を一つにして祈りを深めていった。祈りのあとは教会ホールで茶話会が開かれ、交流のひとつが持たれた。

が全免償です」とあります。少し分りづらいかもしれませんが、聖パウロ修道女会の公式サイト「ラウダーテ」に分かりやすく書かれていますから引用したいと思えます。時々、免償を罪のゆるしだと誤解している人がいるのですが、免償は罪のゆるしではなく、ゆるされた罪に伴う有限の罰を軽減するものです。

私たちがゆるしの秘跡を受けるとき、司祭から「償いとして」と言われます。今はほとんど、償いとして祈ることが命じられることが多いようですが、昔、教会では長期にわたる償いも命じられていました。それを免除したり、期間を短くしたりすることが、免償の始まりだったのです。

罪というものは、どんな罪であれ、その人に影響を及ぼさずにはおきません。あまりよいたとえではありませんが、ある人が人を傷つけたとします。その怪我のため、傷つけられた人は入院しなければなりません。この場合、「人を傷つけた」という罪はゆるしの秘跡を受けることによってゆるされますが、怪我を負

わせた人への償いと同時に、裁判の結果によっては刑に服さなければなりません。それが有限の罰といっいいでしょう。私たちが罪を犯すとき、ゆるしの秘跡によってゆるされたとしても罪全体が必然的にもたらす悪の結果は残ります。それを罰といっています。ですから、罰は神様が与えるものではないのです。

あるとき一人の初老の男性と話をする機会がありました。その方は洗礼を受けてながらも長い期間、教会から離れていたようです。私がその理由を尋ねると、彼は一言、「私のような罪人が教会に足を踏み入れるなんて…」と呟くように言葉を濁したことを今でもはっきりと覚えてい

た。しかし光は見たくないものまで見せてしまうという働きもしてしまうのです。えてして洋服のシミや皺は部屋の中では気付かないものです。明るい陽射しのもとに出て、自分が着ている服のシミや皺にはじめて気付いたという経験が皆さんにもあるのではないのでしょうか。

イエス様に向かって歩む

イエス様を信じる信仰者の歩みは光の源であるイエス様へと導かれることでもあります。だからこそイエス様に近づけば近づくほど自分の心のシミや皺に気付いてしまいます。

人間は自分の罪に気付くか、らくこそ悔い改め・回心ができるのです。また、その罪を赦してくださる方を信じているからこそイエス様と共に生きることができるよう

この男性の言葉に共感できる方は少なからずいるのではないかと思われると思います。さて、前回は光が何かを私たちに見せてくれているということを書きました

私たちがイエス様を遣わされたのは私たちが裁くためではなく私たちが救うため、即ち、光を与えることによってご自分のところへと引き寄せてくださるためなのです。